

京都教区時報

Home Page <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/catholic/>

2・3頁 大聖年指定行事

4頁 教区協議会議事録

発行 京都司教区
責任者 村上透磨
京都市中京区河原町
三条上ル
カトリック会館
FAX
075-211-3041
「教区時報」宛と明記

点訳版「京都教区時報」(無料)
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまで申込みください。
TEL・FAX 0794-31-8601

はつせいたいをむかえて・・・

なまえ
名
君
主
ね

今日はぼくははつせ、た、を
うけた。す、う、とはつせ、た、
の日をまつて、いた。うれしかっ
た。が、せ、た、は、と、てもお
いかつた。し、ん父、と、ま、に、
せ、た、を、も、ら、う、時、「キ、ド、キ」
した。(このからう)せ、た、を
す、と、モ、ら、え、る、からうれし、
日よ、う、が、す、き、に、が、た。

共同宣教司牧を行う目的

それは、カトリック教会が「福音宣教する教会」となるためです。

この「福音宣教」という言葉は、訳語の問題もありますが、福音を知らない人々に伝えるという理解にとどまっているので、「私は聖書をあまり勉強していないので伝えられない」とか、「私は話が下手だから」などという言葉が出てくるのではないか。福音宣教という言葉はもともと広い意味を持っています。イエスを通して神に全幅の信頼を寄せて日々の生活を営むことも福音宣教であり、近所の人々の中に神のお望みが実現していることを心から喜ぶこともそうではないでしょうか。

私たち信者がまわりの人々からイエスの福音のすばらしさを学ぶことができれば、最高の福音宣教ではないでしょうか。

私たちの信仰は、生活の一部ではなく、日々の生活そのものなのです。付属物ではなく、私の存在の根幹をなすものです。この信仰を次世代につないでいくための最良のものが、共同宣教司牧なのです。

**2
2001**

大聖年指定行事

国際ファミリーデー in 三重



昨年の十一月十九日に、カトリック三重協議会が主催する「国際ファミリーデー in 三重」が、三重県のセントヨゼフ講堂にて行われた。

三重県の教会の現状は、外国人信徒が圧倒的に多く、教会はまさに国際的（カトリック）と言わざるを得ません。そのようなわけで、大聖年の集いは国際ファミリーデーとなりました。

三重県の教会の現状は、外国人信徒が圧倒的に多く、教会はまさに国際的（カトリック）と言わざるを得ません。そのようなわけで、大聖年の集いは国際ファミリーデーとなりました。

三重県の教会の現状は、外国人信徒が圧倒的に多く、教会はまさに国際的（カトリック）と言わざるを得ません。そのようなわけで、大聖年の集いは国際ファミリーデーとなりました。

第一部であるミサの朗読は、申命記十章の孤児・寡婦・寄留者の権利を守れとの諭し。第一コリント十二章の「おまえは要らないと言ってはならない」。ヨハネ福音書十五章「キリストが愛したように愛せよ」であった。ミサの式次第は、国際的ミサにふさわしい工夫を凝らしたものであったが、一つ特筆すべき点だけを報告しておこう。それは、滞日外国人、特に子

司教様は当日のメッセージの中で、「教会は開かれた家であり、誰もが気兼ねなく滞在できる家です。これがパロキア（小教区）の本来の意味なのです」（※上の写真）と語りかけ、この家では誰も部外者ではなく、滞日外国人の方々も「お客様」ではなく、信仰を同じくする仲間（パンの仲間）でありますことを訴え、さらに、聖年のシンボルマークが示すように、「全人類家族が、主キリストを中心連帯し、同じキリスト者としての教会共同体を作り、お互いに協力し、愛と平和の地球を作る」とが、大聖年の目標である。」という主旨のメッセージをくださったが、その主旨がここに実現したと思われた。

第一部であるミサの朗読は、申命記十章の孤児・寡婦・寄留者の権利を守れとの諭し。第一コリント十二章の「おまえは要らないと言ってはならない」。ヨハネ福音書十五章「キリストが愛したように愛せよ」であった。ミサの式次第は、国際的ミサにふさわしい工夫を凝らしたものであったが、一つ特筆すべき点だけを報告しておこう。それは、滞日外国人、特に子

ども達の証言を聞くというものであつた。実際には、子どもに限定されず、病気や障害にあつた人の体験、地域社会で生活していく中の婦人の証言などもあり、結果的には多様性に富む内容となつて良かつたと思う。

ここでは私が受けた感銘を報告しておく。それは、困難な状況を同じくする仲間（パンの仲間）での反省に基づいた希望や期待が聞こえて来たことである。この積極的な姿勢が、私たち日本人信徒の「ひとつに」という姿勢と「ともに」という方向性に、温かく明るく希望ある視点へと招くもののように思えた。「泣きごと」と「憐れみ」では本当の一一致や共生、協力は生まれては来ない。これが五百人近い参列者が感じた一つの心と声との交わりではなかつたか。

第二部は、それぞれが持ち寄つた食品による会食（アガペ）。ブラジル、ボリビア、ペルー、フィリピン、勿論日本などのお国自慢の食事に舌鼓を打つことになる。食事（アガペ）はまさに愛の交わりのしるしにふさわしい。

い踊りや歌のアトラクション。なお、名張教会中心の青年バンドによる演奏は、会場の人々を楽しませた。あそびも人をなごませ、娛樂も人を睦させ、愛の交わりを生む。

最後に代表的で全体を集約するような感想の概略を紹介する。

この国際的で司教・司祭団・信徒と共に捧げるミサに感動した事。

しかし、価値を考えてみた時①これが単なる催しとして集つて来たのか、それともこのような交わりが教会共同体、日常生活の延長線上にあるのか考え方直してみると

②これが单なる催しとして集つて来たのか、それともこのような交わりが教会共同体、日常生活の延長線上にあるのか考え方直してみると

必要があること。

③この日のこの様な一致の集いが特に淋しい思いでいる滞日外国人の心の癒しへの影響を与える得るのではないかとの期待。

最後にこの様な大会が成功するには陰の協力と奉仕と献身がある事を見落としてはならぬ。神に感謝。

第三部は、それぞれの国の樂し

大聖年指定行事

京都北部地区

大聖年シンボルリレー

完結記念大会



大塚司教様をお迎えしてのこの大会、二月に積雪の中の宮津教会をスタートした大聖年のシンボルリレーは、春から初夏にかけて丹後半島を巡り、真夏に大江山を越え、由良川沿いを綾部まで、紅葉の山々を縫って舞鶴へ、そして今日全行程約二一〇キロメートルのリレーが完結しました。



この大会の何よりの喜びは、ミサ会場までの短い距離ではあります。しかし、大聖年の取り組みに「京都北部が一つになろう」という私たちの願いが御父の御旨に届き、喜びを分かち合い、主の祈りと賛美の歌を捧げつつ、司教様のお出迎えを受けながら共に「聖なる巡礼」が出来たことです。

「あれ? 司教様が玄関に出て下さってる!」

十二月三日の「京都北部大聖年シンボルリレー完結記念大会」は、こんな驚きから始まりました。



こうして大会が無事終了する事が出来ましたのは、一年間の継続しての行事という初めての取り組みに、ご指導下さった顧問司祭の谷口神父様をはじめ、各神父様方、小教区の役員、信徒の皆様、関係の各施設の皆様が「主のもとにつながる」と心を合わせてくださった賜物と感謝いたします。

そして司教様の司式、六人の司祭により一感謝で祝う千秋楽ミサが始まりました。私たちはこの大会に「隣人の声を聞き、感謝の内に共に祈ろう」というテーマをかけました。約二十名の滞日外国人の方々の参加があり、第一の朗読は英語で、奉納の歌は全員がタガログ語で捧げました(ミサの前

京都北部協議会 細野乃武夫

巡礼団の中には当時の衣装でのパフォーマンスの青年たち、ラクダのお面を付けての子供たちやお父さんの肩車での参加の幼児たちと、共に感謝と喜びをもってこのリレーのフィナーレを迎えたことは、私たちがまさに新しい千年紀に向かって素晴らしいスタートを切ることが出来た証と感謝いたしております。

午後はフィリピンの方々の舞踏や歌をはさみ、国際理解を深めるために「アジア体験学習リポート」「小教区共同体としての国際交流の課題」というテーマでの発表があり、今日を機会にさらに隣人と連帯を進めることが必要と痛感させられました。

に練習をしました)。一つになつた輪が更に大きく広がつたと実感出来た、素晴らしいミサであったと思います。

京都教区カトリック協議会

共同宣教司牧には、諸活動の共通化を

昨年十月二十八日（土）に行われた第八回カトリック京都教区・教区カトリック協議会の内容を報告します。正式な議事録は各小教区・修道院に送付されています。議題は次の通りでした。

- 1 共同宣教司牧に関する各地区カトリック協議会からの報告及び司教講評
 - 2 次回教区カトリック協議会に向けての司教提案
 - 3 本部事務局からのお知らせ
 - 4 その他の報告
 - 5 今後の日程について
- ◆共同宣教司牧に関する各地区カトリック協議会からの報告及び司教講評
- （1）各地区からの報告
- 次のような話し合いの現状が報告された。（①今まくいっているから共通のルールは必要ないといふ意見がネットになっている。②共同して社会と共にある教会を目指す。③規約の文章化の検討をすめている。④すでにかなり合同での活動が進んでいる。

- 滋賀地区湖西ブロックは、宣教ということに力点をおいて話し合ふ、「福音宣教を実践する原動力となるのは、一人ひとりの回心だと思う」というところは、的を射ていると思う。
- 京都南部地区は、アンケートが行われたが、これから何をしなければならないのかという建設的な

また次のような意見が出たことが報告された。
 ①社会と共にある教会は、一人ひとりの回心が必要である。
 ②小教区は独自性を保ちながら共通の方針で協力していく。

（2）司教講評

- 前回、各地区的代表ではなくチームごとで、文書化された規約を作るという発想から一旦離れて、何が共通のルールとして必要なのか、それがもう一步、踏み出すためのものなのだという姿勢で話し合って欲しいとお願いした。
- 京都北部地区の「宣教しない教会は存在価値が無く、守りの姿勢だけでは、教会の発展は望めない」という内容は、目的をしっかりと握っていると思う。
- 全体を通して共通の規約・ルールを作ることより、具体的・実際的な諸活動の共通化を進めていくことが共同宣教司牧を深めていく早道ではないかということだった。

◆次回教区カトリック協議会に向けての司教提案

今回も含めて過去三回、共同宣教司牧に係る協議を経てきたが、共同宣教司牧とは何なのか、何を目指しているのかということについての共通認識をより多くの人々と同じレベルで話し合う必要性を感じている。そこで、来年の年頭

意識が必要ではないか。福音を生き、伝える共同体組織を持つべきのかという反省から出発すべきものである。

・三重地区は、信徒一人ひとりが、

が報告された。
 ①社会と共にある教会は、一人ひとりの回心が必要である。
 ②小教区は独自性を保ちながら共通の方針で協力していく。

（2）司教講評

- 奈良地区は、それぞれのプロ

クの実態・特色を詳細に報告していただきたい。共通化すべき事柄（典礼、財務等）を明確にしたほうが、共同宣教司牧を充実させるきっかけになるというヒントをい

ただけたと思う。

・奈良地区は、それぞれのプロ

クの実態・特色を詳細に報告していただきたい。共通化すべき事柄（典礼、財務等）を明確にしたほうが、共同宣教司牧を充実させるきっかけになるというヒントをい

ただけたと思う。

・全体を通して共通の規約・ル

ールを作ることより、具体的・実際的な諸活動の共通化を進めていくことが共同宣教司牧を深めていく早道ではないかということだった。

◆次回教区カトリック協議会に向

けての司教提案

今回も含めて過去三回、共同宣

教司牧に係る協議を経てきたが、

共同宣教司牧とは何なのか、何を

を目指しているのかということにつ

いての共通認識をより多くの人々

と同じレベルで話し合う必要性を

感じている。そこで、来年の年頭

書簡において共同宣教司牧についての司教教書という形で発表したい。次回の本協議会までには教区時報等で公表されていると思うので、各地区代表者は、その文書を読み、自分なりに共同宣教司牧を推進するための私案を作成の上、次回本協議会に持ち寄っていただきたい。各地区はこれより年末年始の多忙な時期となるので、地区レベルの協議は必要としない。あくまで本協議会代表者一人ひとりの自分なりの考え方・アイデアなどを次回に聴かせていただきたい。

◆出席者【主宰者】大塚司教【三重代表】荒田和彦、Sr岩間尚子、ネリグ師（オヘル師代理）【奈良代表】奥本孝史、Sr日宇美智子、タロク師【滋賀代表】今井章夫、児玉協子、Sr野元節、瀧野師（ジャクソン師代理）【京都北部代表】細野武夫、藤村嘉彦、Sr渡辺嘉子、谷口師【京都南部代表】松崎茂、Sr友野都、オガンド（ボアベール師代理）【青年センター】佐藤紀子【司教総代理】村上（眞）師【本部事務局長】森田師【オバザーバー】ルカ師【書記局】山本信子、梅原けい子、奥本裕、湊路易【欠席者】別宮道夫、石山英勝、奥本裕昭、ハイメ師、ブルーノ師

カトリック・仏教三寺院 精神的兄弟提携調印式

宗教の違いを越えて、平和のために手を携えていこうと教皇様のアッシジからの呼びかけから、世界宗教者会議(WCRP)そして比叡山宗教サミットとなり、今回また日本における源流の京都から新しい動きが起きた。

京都にある世界文化遺産十七寺院の一つで梅尾の名刹である高山寺、そして比叡山の琵琶湖側山麓の深い木立のなかにたたずむ不断念仏で知られる天台宗真盛宗総本山山西教寺(さいきょうじ・山本孝圓管長)そしてイタリアのアッシジの三寺院が、このほど精神的兄弟提携を結ぶことになり、去る十一月四日西教寺でその調印式が行われた。



かれ、イタリア語でスピーチし、
(通訳川下勝コンベンツアルフラ
ンシスコ修道会前日本管区長)

新校舎完成 東京カトリック神学院

成することができると良いと考えています」。

昨年末の十二月三日、新校舎、宿舎、聖堂などが完成し、東京都練馬区にある同神学院で感謝ミサ、竣工式典が行われた(カトリック新聞十一月二十四日号に関連記事)。同神学院司教常任委員長である京都司教の大塚師は、次のように語った。

「本当に素敵な建物が出来ました。神学院は、集団で教えるといふものではなく、人と人との出会いえる建物で、その中でみことばを説くことができるような司祭を養

いた。区の奥村神学生は次のように語った。「聖堂は八角形の板張りで、木のイメージを大切にしています。それを回廊風の建物が囲む形で建ててあり、学び舎というよりも、黙想の家という印象が強い建物かも知れません」。

竣工式の司会を担当した京都教

区の奥村神学生は次のように語った。

「聖堂は八角形の板張りで、木のイメージを大切にしています。

それを回廊風の建物が囲む形で建

ててあります。神学院は、集団で教えるといふものではなく、人と人との出会い

える建物で、その中でみことばを説くことができるような司祭を養

エスコラピオス修道会 来日五十周年記念式典

去る十一月十日(日)、三重県四日市教会は、大塚司教様を迎えてエスコラピオス修道会の来日宣教五十周年を祝いました。

一九五〇年に横浜教区でわずか二人の司祭から始まった本修道会の活動は、この二〇〇〇年までに東京の修道院での神学生の養成事業、横浜の戸部と四日市教会の司牧、海の星カトリック幼稚園と海星中・高等学校の経営に当たるなど発展して参りました。

全カトリック学校の保護の聖人である聖ヨゼフ・カラサンスを戴く同会は、中世以来世界の二十七余りの国で約千五百名の会員が、教育や宣教司牧に活躍しています。当時はローマからホセ・マリア・バルセス修道会総長神父を始め、ペトロ・アクワダバスク管区長神父、ホセ・パスカル・ブルゲス日本・フィリピン管区長神父など、多くの会員司祭が来日して、大塚京都教区長様の司式による感謝ミサと共に捧げました。

県内修道会から多くの司祭や修道者、信徒の方々が出席され、四日市教会の司祭信徒と喜びを共

にして下さいました。

良書紹介

ミサ後引き続いだ聖堂にて記念式典が行われ、修道会側からも日本での宣教活動を続ける決意の挨拶に続いて、司教様からも本修道会の功績に対して感謝の言葉と祝辞が贈られました。

その後、聖マリア館ホールに会場を移して記念祝賀会が開催され、約二百名の出席者が司教様や会員司祭方と親しく懇談し、午後一時半、和やかな雰囲気の内に閉会しました。

この日から日本におけるエスコラピオス修道会は、二十一世紀へ向けてまた新たな歴史を刻むことになります。



私たちの信仰生活に、潤いと希望を与える、分かりやすい良書を紹介します。聖書について、信者として「生きることについて、祖先と死者について、それぞれ一冊ずつ選びました。
（編集者）

六の窓から紹介する。人の一生の、それぞれの時期に深くかかわっている人々の、生のことばで綴られた体験の書。【日本図書館協会選定図書】税別千三百円。

★聖書をより理解するために
『聖書を知る31の鍵』
ドン・ボスコ社 1998

★カトリックの祖先崇敬について
『祖先と死者についてのカトリック信者の手引』
日本カトリック諸宗教委員会編著 5

聖書全巻について、三十一のアイディアで解説！ 聖書が大切なのは分かっているが、どうから開いたら良いのかが分からぬ、という方に最適。聖書を理解するための三十一のヒントが記されています。税別五百円。

カトリック教会が、亡くなつた信徒に対して、また、キリストを知らずにこの世を去った死者に対してどのように考へ、どのように実践してきたか。また、お墓の問題や他の宗教の行事に参加するにはどのようにしたら良いのか、など、具体的な問題に「どのように対処したらよい」についての、日本カトリック司教協議会が出した公式見解です。税別百五十円。

★十六名の信仰者によるエッセイ集
『今、この現実のなかで……：共に生きる』

磯村尚徳ほか共著
女子パウロ会 1987

日本の社会と人々の現実を十

お
知
ら
せ

お
知
ら
せ

2001年度水牛絵葉書カレンダー
完成。一部800円。最寄りの教
会か、送る会TEL/FAX07
7(592)2141まで。

京
都
南
部
地
区
か
ら

電話075(822)7123

FAX075(822)7020

福音センターより

会員を募集しています。東ティモー
ルの惨状を知り、水牛と共に希望
を送ろうと1990年から活動を
続けています。一口1000円。

基金は現地に送られ、水牛の購入
資金に充てられ、その水牛は現地
のNGOを通して、人々の生活に
生かされます。入会問合せは07
5(822)7288(河原田)、

077(592)2141(高橋)

◆レジオ・マリエコミチウム 第
3日曜日13時半。河原町会館

◆信睦二金会 第二金曜日10時15
分から(7月8月は休会)

◆カナの会 2月は休会です

◆京都キリストン研究会 定例会
25日(日)

◆京都力トリック混声合唱団 練
習日11日(日)14時、24日(土)
19時河原町会館六階

◆コーキュレステ 第2、第4、
第5木曜日10時~12時河原町教会
地下ホール

◆聖書委員会 聖書講座シリーズ
5月~10月

◆典礼委員会 教会の祈りと聖体
贊美式 第一日曜日17時30分河原

町教会、第三土曜日16時30分衣笠

カルメル修道会

◆部落問題委員会・正義と平和京
都協議会 部落問題委員会常任・
運営委員会24日(土)河原町会館

◆「東ティモールに水牛を送る会」
青年センターより

電話075(822)6246
FAX075(812)6685

◆滋賀カトリック協議会 18日午
後一時半より大津教会にて

◆洛星中学・高等学校▼高校卒業
式7日(水)

◆日星高等学校▼卒業式27日(火)
校卒業式15日(木)

◆聖母学院中学校・高等学校▼ベ
ルナデッタのミサ14日(水)▼高
校卒業式15日(木)

◆滋賀地区から

◆滋賀カトリック協議会 5日(月)19
時より河原町教会地下ホール

◆河原町教会 聖親会総会25日

◆京都南部協議会 5日(月)19

◆京都キリストン研究会 定例会
25日(日)

◆京都力トリック混声合唱団 練
習日11日(日)14時、24日(土)
19時河原町会館六階

◆教育関係施設の行事
10日(土)、次回は
6月(7月に予定)

◆聖書講座 5月9日~10月25日
いずれも水曜日夜または木曜日午
前中全20回

◆滋賀カトリック協議会 18日午
後一時半より大津教会にて

◆洛星中学・高等学校▼高校卒業
式7日(水)

◆日星高等学校▼卒業式27日(火)
校卒業式15日(木)

◆聖母学院中学校・高等学校▼ベ
ルナデッタのミサ14日(水)▼高
校卒業式15日(木)

◆滋賀カトリック協議会 5日(月)19

時より河原町教会地下ホール

◆河原町教会 聖親会総会25日

◆京都キリストン研究会 定例会
25日(日)

◆京都力トリック混声合唱団 練
習日11日(日)14時、24日(土)
19時河原町会館六階

◆教育関係施設の行事
10日(土)、次回は
6月(7月に予定)

◆聖書講座 5月9日~10月25日
いずれも水曜日夜または木曜日午
前中全20回



ケアハウス
入居者募集

家庭での生活が不安な六
十歳以上の方々が、健やか

で安心した生活を送れるよ

うに、食事や入浴の準備を

させていただきます。また、

個室での自立した生活を送

れるようホームヘルプ等の

施設外サービスも受けられ

ます。

神とともに住まう憩いの
場へまず、お電話下さい。

0774(94)4125

ケアハウス神の園
京都府相楽郡精華町
北畠八間焼山

大塚司教の

2月のスケジュール

1日(木)	常任司教委員会10時 正義と平和協議会事務 局会議16時	
2日(金)	故古屋司教衣笠墓参11時 韓歴史勉強会18時	
3日(土)	故古屋司教追悼10時 年祭ミサ(河原町)16時	
4日(日)	聖人顕彰ミサ(フランシスコの家)14時 ゲアルベ会総会出席 (渋谷)	
5日(月)	青谷幼稚園祝別10時	
6日(火)	10日(土) 11日(日) 12日(月) 13日(火) 14日(水) 15日(木) 16日(金) 17日(土) 18日(日) 19日(月) 20日(火) 21日(水) 22日(木) 23日(金) 24日(土) 式10時	青谷幼稚園祝別10時 午前中正 平協担当者会議 午後15日(木)新潟 司教総会 園部聖家族女子高卒業 青少年委員会18時 セントヨゼフ祝別式11時 書記局会議18時 ノートルダム高校卒業 式9時

お知らせ

◆聖ドミニコ女子修道院▼みことばを聴こう

米田彰男神父(ドミニコ会)2月18日(日)聖ドミ

ニコ女子修道院申込み電話、FAX、葉書で安達まで

電話075(231)2017
FAX075(222)2573

◆「一万匹の蟻運動」基金報告

累計27,184,572円
加入者861名(12月18日現在)

◆電話番号情報コーナー

いのちの電話(相談窓口)
075(864)4343
0742(35)1000
052(971)4343

◆編集部より
お知らせに載せたい情報は、4月号は2月19日、5月号は3月19日までに、京都教区事務所内「京都教区時報宛」にお願いします。

二十一世紀と「ジョバニ」

ジョバニ編集長 山口雅広

昨年の大晦日から元旦にかけて「二十一世紀」の到来を待ち、カウント・ダウンなるものをした人も多かろう。しかし少し考えてみて欲しい。もう既にカウントされきり到来したことになつて「二十一世紀」なるもの、それは一体どこに存在しているのか、ということを。実はそれは現実世界のどこにも見出されない。なぜならそれはただ概念的にしか存在しないものだからである。

では概念的に存在するという事はどういう事なのだろうか。ある観点からすれば、完成されたものとしては常に存在しないものであるといえよう。実際「二十一世紀」は歴史的な観点から述べればまだ始まつたばかりであり、あと百年程しないとその全体像を露わにはしない。この意味で「二十一世紀」なるものは現在進行中の事態を反映し、一刻と完成され行く概念である。

ところで「ジョバニ」もまた完成され行く存在である。その理由には、青年の活動の如何にその内容がかかっているという

ことが挙げられる。「ジョバニ」は青年センターの機関紙として十数年の長きに渡り、京都教区の青年の活動を広報する役割を果たしてきた。また同時に、青年の様々な活動内容、出来事を掲載した記録簿としての存在をも兼ねてきたのである。この意味でそれは、青年の活動に即して完成され行くといえる。言い換えれば「ジョバニ」はアルバムであり、青年によって作り上げられ行く性格を持つ。

以上のよう、「二十一世紀」にせよ「ジョバニ」にせよ、共に未完成なものであるがゆえに、完成され行く性格を持つものであった。前者は人類が形成に參與するものであるし、後者は特徴化していく京都教区の青年が作り行くものである。ただ私が思うに、前者においては他者への視線、後者においては神すなわち愛における一致という意識が徹底して欠けたままに行動されるのであれば、前者においては過去の汚点の繰り返し、後者においては単なる利害物という性格が生じる事になるだろう。